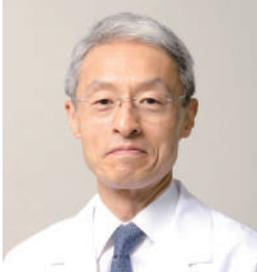


〈病院の理念〉 社会のニーズに応える安全で質の高い医療を皆様に提供するとともに良識ある人間性豊かな医療人を育成します

全身疾患が引き起こす  
眼疾患



## 2025 年頭のご挨拶



病院長  
広域医療連携センター  
センター長  
勝間田 敬弘

2025年の年頭にあたり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

本年は、当院の診療機能を刷新する節目の年となります。7月に病院新本館B棟が開院いたします。これにより、2027年に迎える大阪医科大学創立100周年記念事業の大きな柱である病院新本館の建設が完了します。B棟には、臓器別・疾患別のユニット制を敷いた外来が設置されます。また、スマート外来案内システムが導入され、患者さんはスマートフォンでお呼び出し状況を確認でき、待合室の“密”が解消されます。さらに、再来患者さんの受付も自動化され、手続き時間の短縮が期待されます。初診のWeb予約サイト“やくばと”も、患者さんのご紹介に是非ご利用ください。患者サポートエリアでは、患者さんが入院するために必要な手続きを、ワンストップで完了することを目指します。院内は斬新なデザインが施され、カフェテラスや絵画のデジタル展示などを取り入れることで、ご来院いただく皆さまに少しでも心身の休まる快適な時間と空間を提供する工夫がなされています。

当院は、例年どおり1月13日(月・成人の日)は通常どおり開院いたします。  
本年も、どうぞよろしくお願いいたします。



特集:眼科 全診療科からの紹介可 かかりつけの患者さんで“目”が気になる方は、当院眼科が専門性と高度医療でトータルに対応します

喜田 照代  
眼科 科長



日本眼科学会認定 眼科専門医・指導医  
眼科PDT認定医  
専門: 網膜硝子体・黄斑、眼循環

眼疾患と全身疾患との関わり

当院には、網膜硝子体・黄斑、緑内障、白内障、ぶどう膜、角膜、神経、斜視弱視、涙道・眼瞼など、ほぼ全ての眼科専門外来があります。日本の眼医療に貢献したいと思ひ、今後も邁進してまいります。

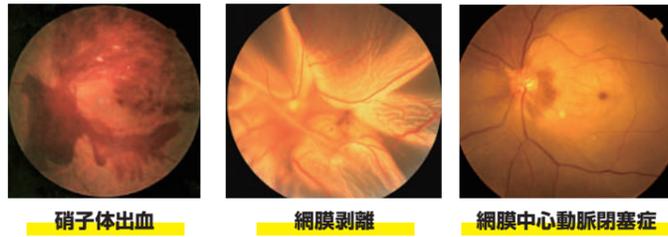
私自身は大学院生のときに眼循環（網膜・視神経乳頭循環）に興味をもち、眼底疾患を専門に診療・研究を行ってまいりました。現在、加齢黄斑変性、網膜静脈閉塞症、糖尿病網膜症、中心性漿液性脈絡網膜症など眼底疾患の診療を専門としています。

人生100年時代、眼科治療に加えて**全身管理も大切です**。眼科は想像以上に**他診療科との連携が必要**であることが多く、他診療科との連携なくして、患者さんに対する最善の医療や**Quality of Visionの向上に貢献**できないと考えています。当院には多くの診療科がありますので**連携しながら眼科診療を行うことが可能**です。例として他院で対応が難しい白内障手術なども安心して受けていただけるのが当科の強みと言えます。当科は「眼科」はもちろんです**全ての診療科の先生方からのご紹介を受け付けております**。

紹介状に、“最近見えにくい”だけの一文で結構ですので、かかりつけの患者さんで“目”が気になる方がいらっしゃいましたらお気軽にご紹介ください。今後ともよろしくお願ひいたします。

外来 ⇒ 火・金

網膜疾患（手術や早期治療が必要な例）



硝子体出血 網膜剥離 網膜中心動脈閉塞症

黄斑の治療（光線力学療法（PDT））

- 抗VEGF薬硝子体注射が奏効しない加齢黄斑変性や慢性中心性漿液性脈絡網膜症(慢性CSC)などに対応いたします。
- 若年の難治性CSCについても自費診療PDTが可能です。



白内障手術の概要

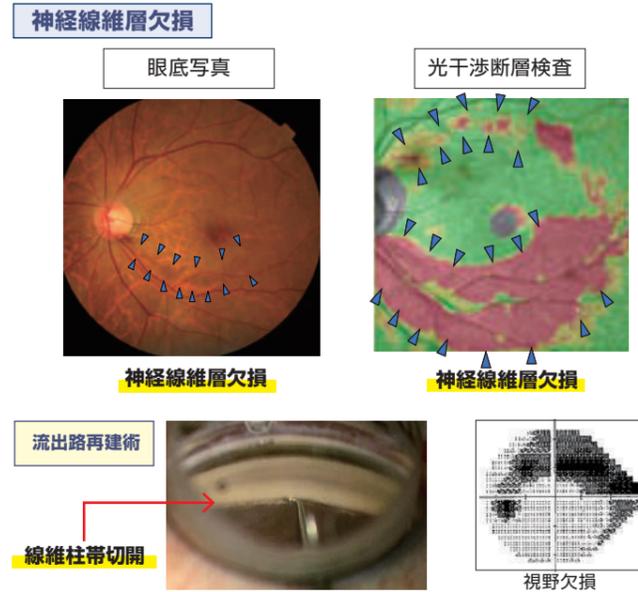
患者さん一人一人に合わせた白内障手術を行っています

病名(手術名)	入院・外来
水晶体再建術(片眼) 眼内レンズ挿入	外来 日帰り手術 入院 1泊2日 両眼手術をご希望の場合は、片眼手術・退院後2週間あけて再度入院していただき、反対眼の手術を行います。
水晶体再建術(両眼) 眼内レンズ挿入	入院 3泊4日 あるいは4泊5日 1回の入院で両眼手術を行います。

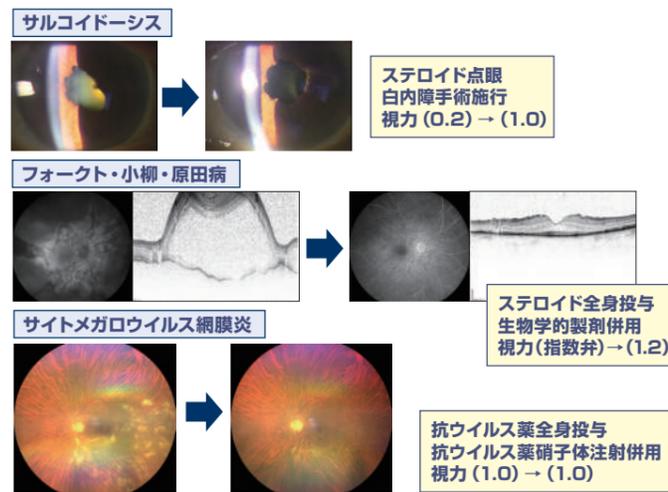
入院日数は個々の症例により変更もございます。担当医にお尋ねください。

**例** 両眼の強度近視のある白内障の患者さんは、1回の入院で両眼手術を行うことで反対眼の白内障手術までの**不同視**の期間を**短縮**することができます。

緑内障の検査と治療



ぶどう膜炎の治療



小林 崇俊  
眼科 医長

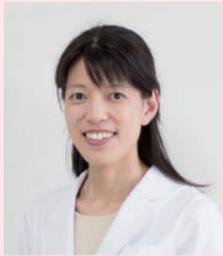
日本眼科学会認定 眼科専門医・指導医  
専門: ぶどう膜

ぶどう膜炎の原因は多岐にわたり、迅速に対応いたします

ぶどう膜炎は、**眼球内における炎症性疾患**です。原因としてベーチェット病などの**膠原病**、サルコイドーシスや糖尿病などの**全身性疾患**、带状疱疹や梅毒などの**感染症**など、50疾患以上が存在します。治療薬はステロイドや免疫抑制剤、抗生物質や抗ウイルス薬など多岐にわたり、副作用にも細心の注意を払っています。**ぶどう膜炎が端緒になって全身疾患が判明する場合もあり**、リウマチ膠原病内科や、呼吸器内科、糖尿病代謝・内分泌内科、皮膚科、小児科など他科とも緊密に連携しながら、大学病院の利点を生かして治療を行っています。視力低下に直結する疾患であり、急いで検査や治療が必要な場合がありますので、疑わしい患者さんがいらっしゃいましたら、いつでもご連絡・ご紹介いただけましたら迅速に対応いたします。

外来 ⇒ 火・木

池田 華子  
眼科 医長



日本眼科学会認定 眼科専門医・指導医  
眼科PDT認定医  
専門: 緑内障、網膜硝子体

緑内障で失明しないために  
~ 40歳以上の5%は ~  
緑内障に罹患 ~

2024年11月に当院に着任いたしました。目が原因で生活が不自由になることがないように、患者さんに寄り添った診療を心がけておりますのでよろしくお願ひ申し上げます。

**緑内障は日本における失明原因の一位の疾患**です。緑内障の有病率は40歳以上で5%、そして70歳以上では10%を超えます。視野の異常は自覚しにくく、“老眼かな？”と思っていたら、末期の緑内障で残存視野がごくわずか、ということも珍しくありません。緑内障は眼圧が上昇する病気、というイメージがありますが、**日本人の多くは“正常眼圧緑内障”であり、眼圧測定だけでは緑内障を否定できません。視野異常は神経線維の脱落によるもの**ですので、一旦視野異常が生じるとそれを戻すことはできません。したがって、早期発見早期治療が必要となります。治療は、“眼圧を下げる”ために、点眼剤を使用します。効果が不十分な場合には、緑内障の手術が必要となります。この10年ほどで選択できる薬剤も多くなり、緑内障手術は低侵襲化しています。一方、高齢の方では一定の頻度で狭隅角の方がおられ、早めの白内障手術が必要となることもあります。

緑内障で気になる患者さんがいらっしゃったらご相談のみでも構いませんので、是非ご紹介ください。

外来 ⇒ 月・木



眼科ホームページ



診療担当表

## 医療連携室からのお知らせ

### TOPICS

## Webからの初診予約申込みを10月より開始しました!

10/1より現行のFAXによる初診患者予約に加え、**24時間365日稼働のwebによる予約申込み**を開始しております。

すでに100医療機関を超える  
お申込みをいただいております



日程調整は患者さんと当院で行います。医療機関さまは、基本情報を入力して、患者さんに紹介状をお渡しいただいたあと、紹介状を申込日当日にFAX送信または画像送信いただくだけで、紹介手続きは完了します。

Web初診予約のご利用をご検討ください。

※FAX申込みも今までどおりご利用いただけます。

本システムのご利用には、メディア株式会社が運営する「やくばと病診連携」へのお申込みが必要です。

こちらの二次元バーコードから、  
お申込みフォームへアクセスできます



<https://media.yakubato.jp/form-03>  
メディア株式会社のフォームへ  
遷移します

ご希望の医療機関のご担当者さまを対象に  
**メールマガジンを配信する運びとなりました**  
お役立ていただける情報をいち早くお届けします



1月中旬  
第4回配信  
予定

### Contents

- ① 今後のイベントのご案内
- ② 診療科からのお知らせ
- ③ ホームページ・広報関係
- ④ 医療連携室からのお知らせ



二次元コードより  
ご登録いただけます

## 「医療機関訪問」のご案内

当院では診療のご案内やニーズをお伺いする医療機関訪問を行っております。頂戴した貴重なご意見は院内で共有し、医療機関様、患者さん双方ともにメリットに繋がるよう改善しております。

**「顔が見える連携」**を目標に、これからも先生方から安心してお任せいただけるよう頑張っております。



## 2025年1月13日(月・成人の日)は、通常診療日です。

- 外来診療、各種診療、手術を行います。
  - シャトルバス(JR高槻⇄大阪医薬大病院)通常通り運行
- ※三島南病院は休診のため、シャトルバス(大阪医薬大病院⇄三島南病院)運休です。



## 医療連携室ご利用のご案内

### ● 医療連携室「FAX紹介申込書」受付時間

平日/8:30~**19:00**(2025年1月から) 土曜日/8:30~12:00

※第2・第4土曜日は休診です。

※FAX受信は24時間可能(休診時も含む)。

但し受付時間以外の受信については翌診療日以降の対応となります。

大阪医科薬科大学病院 広域医療連携センター 医療連携室

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7

● TEL.072-683-1221 (代表) 内線2308

● TEL.072-684-6338 (医療連携室直通)

FAX

送信先 FAX 072-684-6339

本院専用のFAX紹介申込書及び封筒をご用意しております。  
ご利用の場合は、電話またはFAXにてご請求ください